終助詞ヨとネに関する語用論的考察－手続き的意味の観点から－

名嶋義直

東北大学大学院文学研究科

1. 本発表の目的

ヨとネに関して，関連性理論でいう「手続き的意味」の観点を取り入れた記述の枠組みを検討する。

2. 先行研究におけるヨとネ

2. 1. 意味論的研究：田窪・金水（1996）

（1）ヨの位置づけ：「I-領域に当該命題を記載し，関与する知識に付け加え，適切な推論を行えという標識である」

ネの位置づけ：「当該の命題の妥当性を計算中であるという標識」

・**疑問１**：聞き手による推論に関与しないヨの存在

（2）A　「オイ，坂口ちょっと顔かせよ」

カイ「うん，いいよ」　（元気）

・**疑問２**：ネが伝達するものは何か

（5）「あなたは 11 月生まれです」という相手にとって既知の情報自体を独立して述べることに情報価値はない。この文に「ね」をつけて，聞き手と話し手の知識が一致することを示すことで伝えられるのは，話し手がそのことを知っている，あるいは，そのように想定しているという事実である。(p.70)

・**問題解決の方策**：意味論的な観点だけではなく，語用論的観点からの考察も必要ではないか。

2. 2. 語用論的研究：加藤（2001）

（6）ヨの位置づけ：「話題になっている命題内容について，発話者が排他的な知識管理を行う準備があることを示す，という談話構成機能を持った談話標識」[1]

ネの位置づけ：「話題になっている命題内容について，発話者が排他的な知識管理を行う意思がないことを示す，という談話構成機能を持った談話標識」

・**疑問３**：「排他的な知識管理を行おうとするか否か」とヨ・ネの意味機能との関連

（7）A：今日は暑いね

B：うん，暑い［ね／*よ］。　（加藤（2001：42）（41）記号一部改変）

（8）この種の文末助詞の適格性には，単純な文法的判断だけではなく，語用論的判断も関わってくる。例えば，(41）では，B が冗談かけんか腰で「ああ，暑いよ。そんなことは分かりき

っているから言うまでもない」という意味なら，「暑いよ」ということは可能だろう。単純な文法的判断だけではなく語用論的な判断が必要になることが，文末助詞の記述と分析を難しくしているといえる。　（加藤（2001：43）注５）

（9）そんなことは［分かり切っているね／言うまでもないね］

・**疑問４**：ヨとネとを「話題になっている命題内容」という単一のレベルで捉えていること

少なくともネが関与する知識管理には「命題内容の妥当性算定」と「相手に向けた妥当性算定結果の確認」という２つの異なるレベルのものがあると考えられる。一方，田窪・金水（1996）でも加藤（2001）でもヨは命題内容そのものに関する知識管理を表しているとされている。

・**疑問５**：ヨネに関する記述

ヨとネとの間に不可逆的な階層性が存在する。ネとヨとが異なるレベルで知識管理に関与している。

・**問題解決の方策**：ヨとネの階層性をその本質的な特徴として記述できる枠組みが必要ではないか。

3. 考察の枠組み：関連性理論でいう「手続き的意味」

Wilson & Sperber（1993）は語の意味を「概念的なコード化をされる（conceptually encoded）」意味と「手続き的なコード化をされる（procedurally encoded）」意味とを明確に区別している点である。簡単に言うと，概念的意味とは，いわば字義的意味に直接的に依存するものであり，手続き的意味とは，ある発話を理解していくその方向や手順・過程を聞き手に対して示すという働きを持つものである。それによって聞き手は解釈の方向をある特定のものに制約されることになる。

4. 仮説の提出と検証

4. 1. 仮説の提出

（11）ヨは「当該発話が聞き手にとってまず何よりも命題内容レベルにおいて重要な意味を持つ」と話し手が考えていることを聞き手に対し明示的に示す。[2]

ネは「当該発話が聞き手にとってまず何よりも発語内行為レベルにおいて重要な意味を持つ」と話し手が考えていることを聞き手に対し明示的に示す。

4. 2. 仮説の検証

4. 2. 1. ヨネに関する説明

（12）今日は寒い［よね／*ねよ］。

ヨネは「『当該命題内容が何よりもまず重要である』」という発話を「聞き手に向けて発話していること重要な意味がある」ことを表していることになる。「『命題内容に意味がある』と発話することに意味がある」という形は，命題レベルより発語内行為レベルが高次にあることを考えれば矛盾しない。*ネヨの場合は「『当該命題を聞き手に対して発話していることが重要である』」という発話」を「当該命題

内容にまず何よりも重要な意味がある」と捉えていることを表していることになる。「当該発話を行うことに重要な意味があること」を示しておいて，その後に「当該命題内容にまず何よりも重要な意味があること」を示していることになり，矛盾が生じる。そのために許容されない。

4. 2. 2. 周辺的・派生的用法に関する説明

(13) 服部「ちょっと待って下さい。私は分かりますけど，この方々達初めてやったら，モダンもラテンもよう分からんのとちゃいます？　ね！」
小さく頷く杉山と田中　（ダンス）

(14) 初めてだったらモダンもラテンもよくわからませんよ。*よ！

ネは発語内行為レベルに伝達の重点があるため具体的な命題が言語化されていなくても「ね！」と発話することでも機能しうると考えられる。一方，命題内容レベルに伝達の重点があるヨの場合は具体的な命題が言語化されていないと命題内容が不確かとなり，伝達に支障が生じることになる。そのため「よ！」だけでは発話として成立しないことになる。

(15) 文子「ー前半省略ーお店のことは，あの子がやるわよ。再婚しちゃいなさいよ，悪いこと言わないから。ね，聞いてんの，再婚」　（元気）

「呼びかけ」や「問いかけ」のネもまさに「呼びかけ」という発語内行為が伝達の焦点になっていることを示すことになる。つまり，「呼びかけ」のネは終助詞のネと同じ意味機能を有しているがゆえに「呼びかけ」や「問いかけ」という，命題内容を伴わないそれ単独で使用できる意味機能を持つに至ったと考えることができる。そう考えると，間投助詞のネも同様に考えることができる。

(16) 菅野部長「あなたね，時間いくらのキャバクラじゃないの。…これからはね，自分の器にあった店，開拓しないとだめ」　（お受験）

間投助詞のネは，語用論的観点から見ると，発話における構造的な切れ目に置かれることによって発話を促進させる機能があると考えられるが，そのような機能を持ちうるのは，終助詞のネが「発語内行為レベルに伝達の焦点があることを示している」形式であることと関係があると思われる。

4. 2. 3. 語用論的効果に関する説明

ヨが「相手の知らない事実を述べる」場合や「聞き手の情報量のギャップを埋める」場合に使用されるという先行研究の記述は，本発表の仮説から考えると，当然生じる語用論的効果をその本質と錯誤して行われた記述ということになる。聞き手にとって「命題内容がまず何よりも重要な意味を持つ」最も典型的な場合を考えてみると，「当該命題内容を聞き手が知らない」場合がこれに当たるからである。また，そのような場合，当然の結果として「聞き手の情報量のギャップが埋まる」ことになる。しかし，それはあくまで結果でありヨの意味機能ではない，というのが本発表の考え方である。

ヨが「強調」という意味で記述されることがある（中崎（2005：77-78））がこれも語用論的効果であ

ると考えるべきである。ヨが「命題内容がまず何よりも重要な意味を持つ」ことを明示的に伝達するということは，単に命題内容を提示する無標の発話の場合と比べ，当該命題内容の重要性が際だって伝達されることになる。その結果，「強調」という意味合いが生じることになる，と考えられるからである。

ネに関する「確認」や「同意」といった意味記述も本発表が提出した仮説から考えると，当然生じる語用論的効果をその本質と錯誤して行われた記述ということになる。まずこれらの術語が発語内行為を示す名称であることに注目したい。これらは「話し手がネを使って行った発語内行為のタイプ」の記述である。「確認」したり「同意」したりという具体的な発語内行為は発話状況によって変化するものであり，ネの意味機能ではない。また，「情報の共有」という意味でネが言及されることがあるが，これも「確認」したり「同意」したりという具体的な発語内行為が遂行された結果生じる状態であり，ネの意味機能ではないと考えるべきものである。

5. まとめと今後の課題

本発表はヨとネを「手続き的意味」の観点から捉え，かつ，ヨ・ネを異なる階層で機能する言語形式として捉え，その意味機能を考察した。そして，いくつかの事象を説明できることを示した。しかし，ヨ・ネに関わる全ての事象を取り上げたわけではない。更なる論証を今後の課題としたい。

参考文献

加藤重広（2001）「文末助詞『ね』『よ』の談話構成機能」『富山大学人文学部紀要』（35 号）31-48.

白川博之（1992）「終助詞『よ』の機能」『日本語教育』（77 号）36-48.

田窪行則・金水敏（1996）「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』（3-3）59-74.

中崎崇（2005）「終助詞『ヨ』に関する一考察」『語用論研究』（7 号）75-91.

益岡隆志（1991）『モダリティの文法』東京：くろしお出版.

Wilson, Deirdre & Dan Sperber（1993）“Linguistic form and relevance.” *Lingua* 90 (1/2) 1-25.

出典：『シナリオ』（社）シナリオ作家協会，元気：元気の神様（54-7），ダンス：Shall We ダンス？（52-2），お受験：お受験（55-8）

---

[1] 「排他的な知識管理」とは「話題になっている知識や情報に発話者のみが優先的にアクセスできる状況にあるということである」（p.43）と説明されている。また，ここで言う「アクセスできる」とは「一般には『知っている（その知識・情報を長期記憶に収蔵している）』のが典型であるが，その場で発話できるような資料やデータを優位的に所有する立場にあるだけでもよい」（p.44 注 6）と説明されている。

[2] 本発表のヨに関する仮説は独自の考察の結果導き出したものであるが，結果的に白川（1992：42）の「『よ』は，それが付加された文の発話が聞き手に向けられていることを，ことさら表明する」という記述と基本的な方向を一にし，それを更に厳密化したものとなっている。白川（1992）の「発話」の部分を「まずなによりも命題内容」，「聞き手に向け」る理由を「聞き手の発話解釈の方向を明示する」という「手続き的意味」で捉えている点などが本発表の言う「厳密化」である。